

マリレジャーを楽しむために安全対策を忘れずに！

4.海釣りを安全に楽しむには

「海釣り」の場所となる防波堤や岸壁、磯などは、多くが波しぶきなどで濡れたり海藻に覆われたりして滑りやすくなっています。そのため、ちょっとしたきっかけで足をすべらせ、海中に転落することがあります。また、突然の大波に足元をすくわれて海中に転落することもあります。このほか、釣りのために沖合の岩礁や防波堤などに渡ったのち、潮が満ちたのに気付かなかつたり、天候が変わって海が荒れたりしたために岸に戻れなくなることがあります。このほか、釣りのために沖合の岩礁や防波堤などに渡ったのち、潮が満ちたのに気付かなかつたり、天候が変わって海が荒れたりしたために岸に戻れなくなることがあります。このような状況にならないよう、事前に潮位表や天気予報などをよく確認しておくことが大事です。

事故を防いで安全に海釣りを楽しむために、特に次のような点にご注意ください。

・ライフジャケットを着用する

ライフジャケットは、万一、海に落ちたときの命綱です。常時、正しく着用しましょう。

・携帯電話を防水パックに入れて携帯する

万一の場合に、連絡手段を確保するため、携帯電話を防水パックに入れて携帯しましょう。

・緊急通報用電話番号は「118番」へ

海の事故等の通報先は海上保安庁の緊急通報用電話番号「118番」と覚えておきましょう。

・単独行動を避ける

万一に備え、仲間と一緒に行動しましょう。また、家族や知り合いに、行き先や行動予定を伝えてから出かけましょう。

・安全な釣り場を確保する

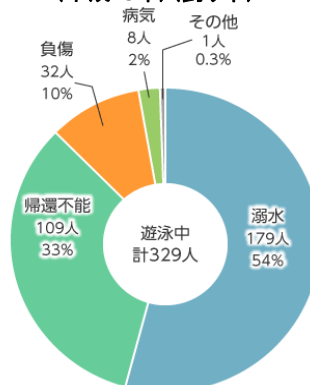
立入が禁止されている場所での釣りは危険なので絶対にやめましょう。

・最新の気象情報を確認する

出発前に最新の気象情報で釣り場周辺の天候の確認を。警報等が発令されているときは迷わず中止しましょう。



事故内容別事故者数の割合
(平成28年)(釣り中)



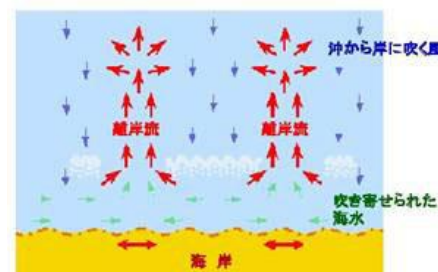
5.離岸流による事故に遭わないために

離岸流(りがりゅう)にご注意を！

遊泳中の事故内容を見ると、「溺水」と「帰還不能」の2つで全体の88%を占めており、それらに「離岸流(リーフカレント)」が大きく関わっているとみられます。離岸流は岸から沖へ向かう潮の流れのことで、主に遊泳禁止区域等において発生します。この流れはとて強く速いので、遊泳中の人間が入り込んでしまうと、全力で泳いでも流れに逆らって岸へ戻ることはまず不可能です。また、疲労やパニックのために海水を呑むなどして「溺水」に至ることになり、非常に危険です。

離岸流の仕組み

風により海岸に吹き寄せられた海水が沖に戻ろうとして起きる流れ。



・看板や旗などの情報に注意して、危険な場所には近づかない

一般の海水浴客が、海面の様子から離岸流の有無を知ることは困難です。多数の海水浴客が訪れる海水浴場などではたいてい、危険な場所について、看板や旗、アナウンスなどで情報を提供していますし、監視員などが注意する場合があります。そうした案内によく注意して、離岸流が起きる場所に近づかないようにしましょう。

・もし離岸流に乗ってしまったら？——海岸と平行に泳いでみよう

少しも泳いでいないのにぐんぐん沖に流されていく場合などは、離岸流に乗った可能性があります。その際は、慌てず、岸に向かって手を大きく振ったり、大声を発したりして助けを求めましょう。可能ならば、海岸と平行に泳ぎましょう。離岸流の幅は10～30メートル

